

会 報

平成9年度 日本生物工学会 年次大会 後記

日本生物工学会の平成9年度大会は、平成9年9月17日（水）より19日（金）まで、東京農業大学世田谷キャンパスで開催された。3日間にわたって一般講演503件、シンポジウム9課題56件、日韓セミナー5件、受賞講演5件、合わせて569の講演が行われた。参加人数は正会員921名、学生会員361名、非会員166名を含めて1,448名であった。

また、展示は50社の協力を得て、体育館を会場として行われた。平成9年度大会をふりかえり、その感想を述べる。

まず一般講演会場については6会場で行われ、3日間滞りなく進行したが、1日目において教会場で講演時間の12分が守られず、参加者より時間厳守での進行をお願いしたいとの申し出が大会本部にあり、翌日以降は座長に進行時間の徹底をお願いした。また各会場が大きかったこと、OHPプロジェクターの性能とスクリーンが大きかったことで、後方までよく見えて好評であった。3日目の午前中の「醸造」では、人数が多かったため、午後からはシンポジウム会場に切り替えて対応した。一般講演会場には空調設備はなかったが、3日間を通して気温もさほど上がらなかったため、幸いであった。シンポジウムは3会場で行われた。本年度のシンポジウムは9課題で、バイオ産業におけるロボット化、光合成微生物の機能活用における最近の進展、乳酸菌の総合的産業利用に関する研究、微生物同定の戦略と方法、ワインに関する最近の話題、ポストペトロケミストリー、食品の高品質化・高機能化へのチャレンジ、新分野を切り拓く酵素達、21世紀をのぞむ生物プロセスシステム工学であった。さらに日韓セミナーもこれに加わった。会場が大きかったことでほとんどの参加者が座って講演が聞けた。講演内容も質の高いものであり大変盛況であった。

授賞式は大会2日目の11時から百周年記念講堂で行われ、小林猛会長の挨拶、各賞授賞選考経過報告に続いて生物学賞（京都大学、田中渥夫氏）、江田賞（菊正宗酒造、溝口晴彦氏）、斎藤賞（広

島大学、山田 隆氏）、照井賞（大阪大学、清水 浩氏）、技術賞（藤沢薬品、添田慎介氏ら）、論文賞（西村隆久氏ら、阪井康能氏ら、島田裕司氏ら、W. Donny氏ら、鈴木高広氏）が授与された。記念撮影の後、田中渥夫氏により「生体触媒の開発と利用に関する研究」と題した生物学賞受賞講演が行われた。なお、その他の賞については、それぞれ関連のシンポジウム会場で受賞講演が行われた。

懇親会は大会2日目の18時からレストランすずしろとカフェテリアグリーンで行われ、388名の参加者があり、大盛況のうちに終了した。懇親会に提供した清酒は、東京農業大学醸造学科の卒業生の蔵元で、31社より協力を頂いた。懇親会の最後に、平成10年度大会は西日本支部主催なので、広島大学の鈴木 修先生よりご挨拶があった。

展示については体育館で行ったが、体育館の入口を総合受付としたことと、休憩場所が展示の周りになったことから、展示会場には多くの会員が来られ、おのおのの展示効果はきわめて高かった。なお、50社の協力を得ているが、実行委員の先生方の働きかけが大きかったことも事実である。

大会期間中に8種類の各種委員会が行われた。

当学会がバイオテクノロジー分野の中核として、生物工学、生物利用工学の発展に対して果たす役割はますます重要になっているなかで、本年度の大会が大いに貢献できたことは、誠にすばらしいことであります。

最後になりましたが、本大会は会員各位はもとより企業の方々、また学会事務局のご協力のもと、盛会のうちに終了できました。この誌面をお借り致しまして、厚く御礼を申し上げます。

平成9年度大会実行委員長 内村 泰

日本生物工学会 第5回囲碁大会報告

本年も日本生物工学会大会に合わせ、第5回囲碁大会会長杯を開催致しました。

富田実先生が、腕自慢20名を抑えて3年ぶり2度目の栄冠を獲得されました。「この大会ではおかしな手は打てない」との独白の通り、好手・鬼手を連発して文字通りの完全優勝でした。他の方々も、手筋・勝負・親睦・飲み物と、思い思いの方法で手談を楽しんで頂きました。

開催に当たっては、錦エーイー企画殿から運営資金、サクラ精機錦殿から進行係、錦千代田製作所から賞品・進行役のご芳志を賜りました。また小泉幸道先生はじめ、東京農業大学の諸先生・学生の皆さんから、ご多忙中にもかかわらず会場設営その他ご尽力を賜り、改めて御礼申し上げます。

この催しもはや5回を終了しました。より多くの方々の参加と御支援をお願いして報告といたします。

開催日時：平成9年9月17日（日本生物工学会年次大会初日）

開催場所：東京農業大学住江記念館

対戦方法：ハンディ戦、変則スイス方式、4回戦



受賞のみなさん



囲碁大会会長杯授賞

大会参加費：2,000円

入賞：優勝 富田 実（徳島県立工業技術センター）

準優勝 刈田修一（三重大学遺伝子実験施設）

3位 菅 健一（大阪大学工学部）

委員長（信州大学）岡崎光雄

文責・幹事 鈴千代田製作所 黒岩 巖

平成9年度 第2回編集委員会議事録

1. 日時 平成9年9月17日（水）12時～12時50分
2. 場所 東京農業大学13号館114号室（1階）
世田谷区桜丘1-1-1
3. 出席者 小林 猛・土佐 哲也・*吉田 敏臣・今中 忠行
*大竹 久夫・太田口和久・五味 勝也・*阪井 康能
*清水 昌・清水 和幸・園元 謙二・高木 昌宏
長棟 輝行・古川 謙介・福田 秀樹・*藤田 正憲
本多 裕之・宮本 和久・村田 幸作・山本 憲二
山田 隆・*依田 幸司 *印 委任状

4. 議事の経過および結果 小林会長は、編集業務に対する謝辞および会誌の更なる質的向上の協力を要請した。引き続き今中忠行編集委員長が議長となり、以下の議事を進めた。

第1号議事 編集状況報告

今中氏は、平成9年8月までの5ヶ月間の編集状況について、資料の通り報告した。また、編集事務などの不備やその他編集に対する気づいたことへの質問を要請したが、異議はなかった。

第2号議事 和文誌の編集について

編集に関する以下の諸問題について協議した。

- 1) 従来の編集幹事を編集委員とすることについて：和文誌改革に伴う編集幹事の取り扱いについて協議した結果、提案の通り編集委員とすることを決めた。
- 2) 論文担当委員（従来の編集委員）を置くことについて：論文審査の編集担当を置くことについて協議した結果、提案の通り和文編集委員と別途に、論文担当委員を置くことを決めた。

第3号議事 英文誌の編集について

- 1) International Editor による communication に関する件：会誌の質的向上をより国際化を促すために、エディターによってコ

ミュニケートされた論文を掲載することについて協議した結果、提案の通り年にエディターあたり1～2報掲載することにした。しかし、論文の採択については Editor in Chief が判断することにした。

- 2) ミニレビューの掲載について：研究部会の成果や編集委員の推薦によるミニレビューを掲載することについて協議した結果、提案の通り掲載することを決めた。
- 3) 英文誌名の変更案について：英文誌名の変更案が若手会員から出されていることについて報告され、具体的名称は別途協議するとして、名称変更の是非について協議した結果、時期尚早であるとして、当分の間変更しないことを決めた。
- 4) 英文の学会名称の変更について：現在の The Society for Fermentation and Bioengineering, Japan から、Japan を削除する提案について協議した結果、提案の通り削除することを決めた。
- 5) 英文誌の目次を毎号更新してインターネット上に公開すること、および NCBI にもリンクすることを決めた。

平成9年度 第4回理事会議事録

1. 日時 平成9年9月18日（木）12時30分～13時30分
2. 場所 東京農業大学13号館 114教室
3. 出席者 今中 忠行・五十嵐泰夫・*今安 聡・*大竹 久夫
*木村 光・*北村 勲平・木下 晋一・小林 猛
*小林 信也・新名 博彦・*清水 昌・*正田 誠
*隅野 靖弘・田中 秀夫・土佐 哲也・*西山 徹
古川 謙介・室岡 義勝・山根 恒夫・吉田 敏臣
監事 永見 憲三・谷 吉樹
陪席者 小泉 淳一（東日本支部長）
内村 泰（大会実行委員長） *印 委任状

4. 議事の経過および結果 室岡義勝庶務担当理事は、理事の出席者数（本人出席11名、委任状9名）を確認し理事会の成立を宣した。小林 猛会長に内村 泰大会実行委員長に対する謝辞があり議事に入った。

第1号議事 平成9年度事業中間報告

- 1) 庶務、事業報告：室岡義勝庶務担当理事は、資料 p. 1～p. 7 に基づいて本部と支部の事業、会議開催状況および会員異動状況について報告した。
- 2) 編集報告：古川謙介編集担当理事は、資料 p. 8～p. 9 に基づいて原稿受付状況および投稿数と掲載数ならびに17日に開催された編集委員会の協議内容について報告した。
- 3) 会計報告：土佐哲也副会長は、隅野靖弘会計担当理事の欠席をうけて、資料 p. 10～p. 11 に基づいて本年8月末日現在の収支状況、貸借対照表および正味財産増減計算書について、昨年度と大差なく概ね順調に推移していることを報告した。

第2号議事 事業・財務計画について

土佐哲也副会長（財務委員長）は、去る17日に開催された財務委員会の協議内容について以下の通り報告した。つまり平成9年度会計を基準にした今後5ヵ年の収支状況の試算は、広告料金、若干の会員増およびその他の収入が本年度同様に推移すると仮定して、

- 1) 基金・積立金を取り壊さずに運営すると、今後毎年200万円

不足すること。

- 2) 毎期赤字決算の上に、今後80周年記念事業（平成14年）、会員名簿刊行（平成11年）および職員の退職金積立金の不足額の繰り入れなどがあり、更に赤字拡大が予想されること。

以上の試算に基づいて、協議したところ以下のような結論を得たこととした。

- イ) 職員の退職金額の算定および給与体系を確認する。
- ロ) 年次大会の財政面の運営を再検討する。
- ハ) 会費以外の収入を考える。
- ニ) 名簿発行はホームページに掲載することを検討する。
- ホ) 基金・積立金の適正保有額は、どのくらいが妥当かを検討する。
- ヘ) これらの意見を総合し再度、試算をした上で、会費値上げを含めた財源を考える。

第3号議事 その他

- イ) 田中秀夫企画担当理事は、北日本支部の設立にともない平成12年の大会を北海道大学で開催する案が第2回常任理事・支部長会議で協議された。これにより現行の開催ローテーションを再検討することになったことを報告した。従って、別紙資料のローテーション案を説明し、意見を伺ったところ平成12年度までの大会、シンポジウムおよび技術セミナーの開催は、原案の通り承認されたが、平成13年度以降については次回に協議することにした。
- ロ) 小林会長は、平成8年11月に開催された次期役員候補者推薦委員会の議決の通り、小林信也氏の醸造研究所退官に伴う後任の所長を理事として登記するよう処理して欲しいと、事務局に再検討を要請した。

平成9年度 第2回評議員会議事録

1. 日 時 平成9年9月19日（金）12時～13時
2. 場 所 東京農業大学 13号館114教室
世田谷区桜丘1-1-1
3. 出席者 *雨村 明倫・天野 義文・荒井 基夫・*石川 尊
*飯島 信司・市川 茂彰・*伊藤 敬三・何森 健
ト部 格・内村 泰・海野 肇・上島 孝之
*大嶋 泰治・*大橋 武久・大宮 邦雄・*岡本暉弘
*岡本 六郎・*小川喜八郎・*荻野 重男・奥村 康
*甲斐 学・加藤 暢夫・*神尾 好是・*北田 牧夫
木田 建次・熊谷知栄子・向阪 正信・*新家 龍
清水 和幸・鈴木 勝・関口 順一・*竹内 昌男
*竹中 登一・*武部 英日・*谷 浩祥・高木 正道
*玉木 輝夫・*塚本 義則・*辻阪 好夫・*富永 嘉男
*富塚 登・中西 一弘・中原 忠篤・*中村 輝也
中村 紀雄・西澤 義矩・*野田 秀夫・原 昌道
*播磨 武・藤尾 雄策・*藤尾 達郎・*藤野 凌
前川 宜彦・*松永 是・*三島 秀夫・宮本 和久
*柳本 正勝・山縣 民敏・*山崎 真狩・*吉栖 肇
監 事 *永見 憲三・谷 吉樹
陪席者 小林 猛・土佐 哲也・*吉田 敏臣・今中 忠行
木村 光・清水 昌・*隅野 靖弘・室岡 義勝
*印 委任状

4. 議事の経過および結果 室岡義勝庶務担当理事は、評議員の出席数（本人29名、委任状24名）を確認して、評議員会の成立を宣した後、議長の選出について諮ったところ、宮本和久氏を全員一致で選出した。続いて内村 泰氏が大会の開催地を代表しておよび小林会長の謝辞並びに議長の挨拶があり、議事録署名人に荒井基夫、ト部 格の両氏を指名して議事に入った。

第1号議事 平成9年度事業中間報告

- 1) 庶務、事業報告：室岡義勝庶務担当理事は、資料 p. 1～p. 7 に基づいて本部と支部の事業、会議開催状況および会員異動状況について報告した。
- 2) 編集報告：今中忠行編集担当理事は、資料 p. 8～p. 9 に基づいて原稿受付状況および投稿数と掲載数について報告した。また17日に開催された編集委員会の協議内容について以下の通り報告した。
- イ) 和文誌の編集幹事を編集委員に改めたい。
- ロ) 和文誌編集委員を論文担当委員と改めたい。
- ハ) International Editor による communication を年1～2報掲載する。
- ニ) 研究部会の成果報告や編集委員の推薦によるミニレビューを掲載する。
- ホ) 英文の学会名称を、The Society for Fermentation and Bioengineering と改めた。
- ヘ) 英文誌の目次を毎号インターネット上に公開することおよびNCBIにリンクする。
- 3) 会計報告：土佐哲也副会長は、隅野靖弘会計担当理事の欠席をうけて、資料 p. 10～p. 11 に基づいて本年8月末日現在の収支状況、貸借対照表および正味財産増減計算書について、昨年度と大差なく概ね順調に推移していることを報告した。

なお、委員から投稿論文の却下および第3者による採択の場合の経過報告を文章化して欲しい、と要望があった。

第2号議事 事業・財務計画について

土佐哲也副会長（財務委員長）は、去る17日に開催された財務委員会の協議内容について以下の通り報告した。つまり平成9年度会計を基準にした今後5ヵ年の収支状況の試算は、広告料金、若干の会員増およびその他の収入が本年度同様に推移すると仮定して、

- 1) 基金・積立金を取り壊さずに運営すると、今後毎年200万円不足すること。
 - 2) 毎期赤字決算の上に、今後80周年記念事業（平成14年）、会員名簿刊行（平成11年）および職員の退職金積立金の不足額の繰り入れなどがあり、更に赤字拡大が予想されること。
- 以上の試算に基づいて、協議したところ以下のような結論を得たことを報告した。
- イ) 職員の退職金額の算定および給与体系を確認する。
 - ロ) 年次大会の財政面の運営を再検討する。
 - ハ) 会費以外の収入を考える。
 - ニ) 名簿発行はホームページに掲載することを検討する。
 - ホ) 基金・積立金の適正保有額は、どのくらいが妥当かを検討する。
 - ヘ) これらの意見を総合し再度、試算をした上で、会費値上げを含めた財源を考える。